

〈平成29年度 総会〉

開催挨拶

環境システム計測制御学会 会長
京都大学大学院工学研究科 教授 清水 芳久



本日は、平成29年度環境システム計測制御学会(EICA)総会にお集まり頂きましてありがとうございます。また、日頃より本会の運営にご協力を頂きましてありがとうございます。

私はこれまで会長を5年務めさせて頂いており、本年度で6年目を迎えました。毎年この総会で挨拶をさせて頂いておられますと、私も含めて皆様も一年一年年齢を重ねておられ、昨今の国内事情を鑑みるに、どうしても「少子超高齢化」という言葉が出て来てまいります。また、会員の皆様とお話をしていると、「最近の若い人は……」というお話が多くなってしまっています。

先日、大学の研究室の卒業生の結婚式に出席して参りました。その卒業生が大学を旅立って7~8年が経過していますので、新郎は30歳前後となります。披露宴の中盤で、司会者から「ご新郎の大学時代のご友人達が最近テレビで流行りの芸を披露して下さいます」とのアナウンスがありました。会場のあちこちから「もしかしたら“アキラ100%?”」、「あのおぼん芸は披露宴では危ないよ」といった囁きが聞こえて来ました。幸いなことに流れてきた音楽は、“ブルゾンちえみ with B”のネタに使われている曲でした。皆がほっと胸を撫で下ろしました。友人達の芸は、とてもクオリティ・完成度の高いものでした。年を重ねてくると、新しいものを見て、取り入れ、自分のものにするといった、これまで容易だったことがなかなか出来ないようになってきます。これは若者が持っている才能です。

本日は、総会の後で講演会が開催されます。本日のご講演の一つは、気候変動や地球温暖化についてのものであります。これらを防止・抑制するといったアプローチはもちろん必要ですが、これらが避けられない状況にあるようだということが理解されてきて、これらに「適応」しようという方向性が示されてきています。この「適応」というアプローチは、決してネガティブなものではありません。先の披露宴の若者達の芸に対

して、世代ギャップを感じるのではなく、「面白い」、「一緒に楽しもう」といった思いが重要なのではないのでしょうか。様々な場所や事柄について、ややもすると否定的な考え方になってしまうのを、私はSTOPすることに決めました。当学会も、「会員数が減った」、「会員の高齢化が進んで……」などとして、今ある現実を嘆くのではなく、一人でも多くの方々に魅力ある学会だと思ってもらえるために何ができるのか、何かできることはないかをもっともっと前向きに考えていきたいと思っています。

本日の講演会のもう一つのご講演のテーマでありますAI、IoT、ビッグデータなども魅力のある分野だと思います。iPS細胞やバイオ、ヘルスケアなんかも若者を引きつけるテーマだと思います。当学会のキーワードの一つである「環境」という切り口もこれからの将来に面白い分野だと思います。学会誌や研究発表会などを通じて会員の皆様はもちろんのこと、これまで興味が薄かった若者にも関心を向けてもらえる様な機会を提供し、より魅力のある、そして、「この学会は何か面白そうだな」と感じてもらえるものにしていければと思います。EICAでは2年前から「EICA活性化プロジェクト」として、パンフレットの作成、ホームページのリニューアル等に取り組んでいます。まず、これらのパンフレットやホームページで目と心に残るキャッチコピーをぜひEICAの若手に考えてもらいたいと思います。

一年一年、時は進んでいきます。前を向いて、上を向いて、ネガティブ思考を止めてポジティブにEICAの活動に取り組んでいきたいと思っています。今後もご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。